



ウェルビー



新入職員紹介

今春、新たに 38 名が、医療法人南労会の職員として加わりました。

4 月 1 日（月）から新入職研修を受講し、職員としての心構えや基礎知識を学び、患者さん・利用者さんから信頼される職員になれるよう真剣に取り組みました。



FMはしもと
81.6 MHz



番組タイトル

「紀和病院の きわめびと」

5月8日(水)から
放送開始!

新!ラジオ番組

和歌山県内でも新しい試み

地域に密着した医療介護を提供しております私たち南労会は、このたび、地域コミュニティで情報を発信しているラジオ局 FM はしもとさんご協力のもと「紀和病院のきわめびと」として、地域のみなさんへ旬な医療の話題などを通して、私たち南労会の想いをお届けしたいという願いが実現しました!

医療情報はもちろん、季節に応じた内容でさまざまな角度から南労会ならではの情報をお伝えしていければと思っています。

記念すべき第一回目は、理事長 佐藤雅司医師が紀和病院にまつわる話から、心が和む笑顔になれる話まで、多岐にわたってお話させていただきます。

ラジオの電波から!

医師、看護師、リハビリスタッフなど、

病院で働くいろんな職業のスタッフが月替わりで登場します。

ぜひ、お聴きください♪



「紀和病院のきわめびと」番組情報

放送日 毎週水曜日 16:30~16:45

周波数 81.6MHz

～ 予定 ～ **FMはしもと 81.6** MHz

5月 理事長 佐藤雅司

6月 副院長 岩崎留美

7月 副院長 居平典久



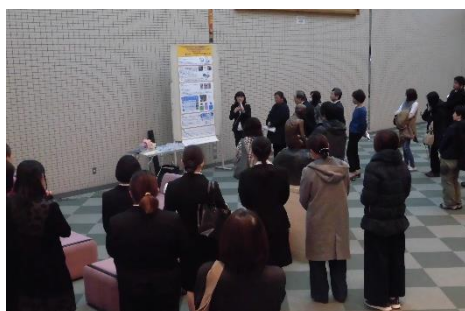
理事長 佐藤医師 (左) パーソナリティ FM はしもと 向井景子さん (右)

3月16日(土)、第16回学術研究発表会をかつらぎ総合文化会館「あじさいホール」にて開催しました。他の職種の発表内容を聴講し、新たな発見が生まれたかもしれません。

第16回学術研究発表会



日々の業務と並行して、この発表のために数か月前から準備をしてきました。データを集めたり、統計をとったり、患者さんにアンケートを行ったり・・・真剣に研究に取り組んだ成果を発表しました。発表のテーマもこれからの病院に役に立つものが多く、また発表の仕方や、話し方も洗練され、大いに進歩した研究発表会でした。



平成31年1月1日より、社会福祉法人聖愛会(所在地 伊都郡高野町高野山44-22)は南労会のグループ法人として事業を継続していきます。

聖愛会は家庭的な雰囲気の中で意欲的に日々の生活を送ることができるよう、利用者さんの心身の状況に応じたケアや個性を生かしたケアを提供しています。また、利用者さん一人ひとりの心の豊かさやゆとりのある生活を目指し、サポートを行います。

- | | |
|--|---|
| 【身体の困りごと】
☐ 最近足の力が落ちた
☐ 膝が痛い
☐ 足がよく浮腫む
☐ 頭がぼーっとする
☐ 手足が動きにくい など | 【生活の困りごと】
☐ お風呂に入りにくい
☐ よく転ぶ
☐ 洗濯が大変
☐ 炊事が大変
☐ 外出が減った など |
|--|---|

↓
身体リハビリ **生活リハビリ**

**予防リハビリ
弱らない身体作り**



5月からは機能訓練指導員(PT/OT)による専門的なリハビリも行っていきます。

電話：0736-56-4990
(見学・体験受付中)

特別養護老人ホーム 南山苑
南労会のグループ法人となりました



教えて！看護師さん



遺伝が関る乳がん・卵巣がんをご存知ですか？



がん（乳がん・卵巣がんを含む）の発症に関係する要因は大きく分けて“環境要因”と“遺伝要因”があるとされています。

“環境要因”とは日常生活(食生活、飲酒、喫煙)などの遺伝しないもの

“遺伝要因”とは親から受け継いだ生まれつき持ったもののことを言います。遺伝要因が、がんの発症に強く関わっている場合を『遺伝性のがん』といい、乳がん・卵巣がんによく知られているのが『遺伝性乳がん・卵巣がん症候群』=HBOC(Hereditary Breast and Ovarian Cancer)です。乳がんや卵巣がん全体の10%は遺伝性のがんと考えられています。ただし、ご家族に乳がんや卵巣がんを発症された人がいるからといって、必ずしも遺伝性のがんであるとは限りません。

HBOC であるか否かを調べる方法として、遺伝子検査があります。紀和ブレスト(乳腺)センターでも、HBOCの可能性が疑われる方や遺伝子検査を希望する方に対し、遺伝子検査を実施する体制を整えました。また、既に乳がんを発症している人で、遺伝子検査にて遺伝子に異常があると判定された方は新しい治療薬オラパリブ(リムパーザ)を使用する事が可能となります。

HBOC と診断された人の血縁者の方や遺伝子検査を希望する方も遺伝子検査を行う事ができますが、遺伝子検査を行う事で生じるメリット・デメリットをご理解頂くために、遺伝カウンセリング外来をご紹介します。遺伝子検査を実施するにあたって、私たち看護師は情報をできるだけわかりやすくお伝えさせて頂くと共にご相談を受けさせて頂きたいと思っております。遺伝子検査がご自身の健康状態と向き合い、未来の健康を考えるひとつのきっかけになれば幸いです。

遺伝性乳がんの特徴

遺伝子因子



環境因子



- ・若年で乳がんを発症する
- ・トリプルネガティブタイプの乳がんを発症する
- ・両方の乳房に乳がんを発症する
- ・片方の乳房に複数がんを発症する
- ・男性で乳がんを発症する
- ・乳がんと卵巣がん(卵管がん腹膜がんを含む)の両方を発症する
- ・家系内に膵臓がん、前立腺がん、乳がん、卵巣がんになった人がいる など



紀和ブレスト(乳腺)センター
紀和クリニック外来 主任
門 美帆

遺伝性乳癌卵巣癌 総合診療協力施設

2019年4月当センターは、
日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構
(JOHBOC)の「遺伝性乳癌卵巣癌総合診療協力施設」に認定されました。

認定期間
自 2019年4月1日 —
至 2022年3月31日





せせらぎ会 小林診療所

今回は自己紹介をさせて戴きます。出身地の橋本市学文路で、曾祖父から続く診療所を継いで開業し、気がつくと13年になりました。

平成3年に徳島大学医学部を卒業し、卒後半年経った頃に、小松島赤十字病院（現、徳島赤十字病院）循環器科が新入局員を募集していると伺い、何の経験もないまま、当時四国では稀有のカテーテル検査数を誇る病院に赴任しました。

私は、人生を左右するものは、師と仰ぐことができる人との出会いではないかと思考しております。私の師は、当時の小松島赤十字病院循環器部長の日浅芳一先生と徳島大学第二内科の大木崇先生でした。

日浅芳一先生には随分と鍛えられました、当時は「働き方改革」など取り上げられることは無く、アパートには着替えに帰るとき以外は戻らず、ほとんど病院で過ごしておりました。また日浅芳一先生のご指導のもと学会発表、論文掲載、また新聞にも冠動脈形成術の記事を連載で持たせて頂きました。

その後、徳島大学第二内科に戻りました。徳島大学第二内科の大木崇先生は特に厳しく、疲労困憊の時期に、大木先生に言われて覚えているのは「患者様の要望に単に答えるのが、その患者様の為になるのでは無い」という事でした。普段、論文作業等に厳しく指導して頂いていたので、臨床に対する姿勢を伺い、患者さんと直接向き合う臨床の奥深さを実感し、目から鱗が落ちました。

小林診療所 Tel 0736-32-0469
和歌山県橋本市学文路 705

院長
田中 英治 先生

今まで勤務して来た病院は、最先端の知識を持った専門医が多数在籍し、最新鋭の医療機器を備え、瞬時に判明する検査結果や画像診断を元に職員全員で最高水準の医療を提供することができました。

紀和病院も含め、このような高品質病院は必要不可欠であり、このような病院で働けたことを感謝し、誇りに思っています。

一方で、地域医療は別の側面からも考える必要があります。なぜなら、患者さんの大多数は重症な病気ではなく、血圧が高い、糖尿病のコントロールがうまくいかない、不整脈の持病がある、手足が痛い、等々の慢性病を患う人達だからです。このような人たちに寄り添って不安を取り除いたり、相談に乗ったりする「かかりつけ医」、「家庭医」は重要です。

小林診療所に戻って働いている間に、地域に深く根ざした多くの尊敬すべき患者様方と出会うことができました。これらの方々が、私のこれからの医師生活の道標となる師と仰ぐことができる先生と思います。

＊本文は院長 田中 英治 先生よりご寄稿いただきました。



新任医師

4月1日付……………

消化器外科 林部 章（はやしべ あきら）

退職医師

3月31日付……………

内科（総合内科） 久保 伸太郎



院長補佐 林部 章（はやしべ あきら） 医師

所属診療科：消化器外科

【略歴】徳島大学医学部（昭和61年卒）

大阪大学関連施設において、多くの消化器悪性疾患（特に肝胆膵領域の悪性疾患）の手術を手掛けてまいりました。直近では、大阪府済生会富田林病院にて、橋本市在住の先生方からたくさんの患者様をご紹介いただき、深謝いたします。今後は、地域の皆様のニーズに見合った消化器診療・手術を心掛けていく所存です。専門は消化器外科ではありますが、肝胆膵領域におきましては、内科系疾患・外科系疾患を問わず、気軽にご相談いただければと存じます。よろしくお願い申し上げます。